

立石林業株式会社
飯野出張所

粗材課・造林課

徳永 知大
長友 薫
末次 由弥



株式会社立久井農園

代表取締役

立久井 義文



珠玉の一言

農業は緻密さ、正確さが大事である。

立久井さん自身はえびの市で生まれ育ち、親から事業を引き継ぎ、現在の場所での農業を始めた。立久井さんにとつての仕事のやりがいは、抱えた課題がうまくいくように仕事することだそう。業務は朝7時45分に始まり、17時に終わる。そして作物は主に鹿児島に輸送され、全国に運ばれている。SDGsへの意識も欠かさない。本来、肥料は化学肥料を使っていたが、現在ではできるだけ化学肥料の量を抑え、堆肥の使用を進めている。その堆肥も農業連携として、主に周辺の畜産農家からもらって

いるものである。仕事をすると、最も気をもむことは天候だそう。雨の中の植付はできない。収穫ができるだけ毎日できるように予定を組み立てるのもひと苦労である。また、一年中キャベツは作れないため、その他の野菜も作っているという。

「これまでの人生すべてが、今日の仕事のためにある。農業に大切なのは正直にすること。取引先には何があっても正直にすべてを伝える。できないことも確かにあるが、それでも人を騙したりしないことが大切だ。それが立久井さんの信念である。」

珠玉の一言

やりがいと苦労はイコール

子供の頃はケーキ屋さんになりたかった長友さんとプロ野球選手になりたかった末次さん。立石林業との出会いは親戚からの紹介だったそう。仕事内容という、粗材課の長友さんは、木を切るのが主な仕事。造林課の末次さんは、苗木の生産や木の下刈り・手入れなどだそう。二人の話聞いてみると、仕事に対する熱意が非常に強く感じられた。仕事のやりがいや苦労を聞くと、圧倒的に苦労話のほうがたくさん出てきた。にもかかわらず、やりがいと苦労はイコールであると語られた。

チーンソーを持って山の中にあがり、重機を使って木を切るのとても重労働だそう。だが、よしと気合を入れ、重機を駆使して木を切ることがやりがいになるそう。これまでの業務で印象に残っていることは、ワイヤーを山に引く張って巻きつける作業が早く「長友くんは早いね」と褒められたことだそう。

今回のインタビューで林業という仕事についてよく知ることができた。危険が多く重労働な仕事でありながらも、やりがいをもって取り組む社員の方々に敬意を覚えた。

会社概要



古河林業より山林事業を継承し、立石林業合資会社として昭和34年に創立。平成8年に組織変更して立石林業株式会社となる。川内川上流の地域に山林を所有し、採ってきた枝穂を苗木に育て、植林・手入れ・伐採を行う循環型林業を60年以上続けている。

代表者／代表取締役 立石 順一
設 立／昭和34年(1959年)1月1日
資本金／1億円
本社所在地／東京都中央区日本橋本町1-1-3
所在地／えびの市大字原田1403番地188
従業員／48名(うち市内出身者23名)

TEL.0984-33-0144 FAX.0984-33-1778



会社概要



ほうれん草、キャベツ、ゴボウ等の露地野菜の植え付けから収穫、出荷作業をえびの市加久藤地区を中心に圃場を借り受け、様々な機械を導入しながら行っています。

代表者／代表取締役 立久井 義文
設 立／平成25年7月19日
資本金／800万円
本社所在地／えびの市大字西長江浦1345番地1
従業員／40名(うち市内出身者20名)
Mail／tachikui-farm@sound.ocn.ne.jp
HP／http://tachikui-farm.com

TEL.0984-35-3255 FAX.0984-48-0126

